最年少のメル友ご家族のご来仙を迎えて

最年少のメル友（「雑学ＢＮ」の「随想等関係（Ｖ）」Ｐ、2006.07.22.「最年少のメル友の素敵な詩をみてあげてください」：参照）の少女ご家族が、関西から、それも車で遠路来仙くださり我が家に泊まっていただいた。

ご家族との出会いは１年８ケ月前の上京してのある集いであった（「雑学ＢＮ」の「随想等関係（Ⅳ）」Ｐ、2005.12.18.「とっても素敵なお土産をゲットに感謝！」：参照）。
出会い以降、ご家族とメールで交流させていただいていた。

上京の折の水戸黄門よろしくお供の助（？）さん、格（？）さん（「雑学ＢＮ」の「随想等関係（Ⅳ）」Ｐ、2005.12.11.「『明石洋子さんの本の完結をお祝いする会』へ出席して」：参照）も、ご家族とはその後もメール等で交流を続けて下さっていたし、今回の観光巡りも同行下さった。

ご助さん（？）のご主人は「案内巡りするのも、みんな一緒の車の方がいいだろう」と、２日間もご自身のワゴン車の運転まで引き受けて下さり、ビデオ撮りまでして下さった。
また、NPO 活動の場所に寝具まで運び込んで宿泊に対応できるように準備もして下さった。
ご好意に甘え、みんな（総勢１１名）で歓送迎の宴を夜遅くまで出来るようにと最終日の宿泊はお世話になった。

格（？）さんは母上と関西に旅行の折にご家族と会っても下さっていたので、今回も母上も手製のミニ仙台七夕持参で歓迎の宴に参加下さった。

後日、助（？）さん、格（？）さんご両人から、次のようなメール。
「今回はいろいろありがとうございました。
ご家族と楽しい時間を過ごせて、本当に嬉しかったです。
この歳になっても新しい出会いと、このようなたくさんの素敵な方々とお付き合いができるなんて、本当に幸せ者だと思います。」
「人との係わりを大切にし、その結果、今日のような人の輪が広がり、深まったこと、とってもうれしいです。
ありがたいことですね。」

母親からは「仙台での思い出は私達家族にとって、これから先大きな力になって行くと思います。
家族それぞれにとっても、これからの人生に大きな力をわけて頂いた様に思えます。」とのメール。

自分は、生きる喜びは人と係わり合い続ける過程にこそあると思っているだけに、ご家族はもちろんのこと、みなさんから喜びと勇気をいただいた数日であった。

阿部幸泰　　（2007 年 8 月 21 日　記）